

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年8月発行)

## 第9回調査

## 8月1日時点の就職活動調査

採用選考解禁から2カ月が経過し、2017年卒業予定者の就職採用戦線は大きな山を越えたようだ。8月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は8割を超える高水準であったことが分かった。

### 1. 8月1日現在の内定状況

- 内定率は85.8%。先月(79.8%)より6ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは83.9%
- モニター全体を分母にすると、就職先決定者は72.0%。就活継続中は24.1%

### 2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

- エントリーは平均47.2社。1カ月間の伸びは1.4社。前年同期(59.9社)より2割以上減少
- 企業単独セミナーは18.2社。前年同期(21.9社)より3.7社減少
- 筆記試験12.9社、面接9.8社。選考試験社数は前年同期とほぼ同水準を維持

### 3. 就職活動方針の推移

- 「気になる企業にはとりにあわずエントリー」が最多(今回74.8%、3月調査77.9%)
- 「個別企業のセミナーにできるだけ参加」「学内セミナーにたくさん参加」当初予定より減少
- 「学業を優先して負担のない範囲で活動」(14.8%)は当初予定(9.5%)より増加

### 4. 就職活動継続学生の動向

- 持ち駒企業数は平均3.1社。今後のエントリー予定社数は2.8社
- 今後の方針は「新たな企業を探しながら持ち駒を広げていく」が約4割(39.9%)

### 5. 就職決定企業の選社理由

- 当初の志望度は「第一志望の企業」36.1%。「第一志望ではないが入りたい企業」45.7%
- 選社理由は「社会貢献度が高い」が最多(31.6%)
- 就活当初と比較すると、労働条件は順位を下げ、「職場の雰囲気」「仕事内容」が上昇

## 調査概要

調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数 : 1,137人(文系男子368人、文系女子341人、理系男子289人、理系女子139人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2016年8月1日~5日  
サンプリング : キャリタス就活2017 学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

**DISCO** はたらくを、もっと豊かに。

### 1. 8月1日現在の内定状況

8月1日現在の学生モニターの内定率は85.8%。先月調査(7月1日現在)では79.8%だったので、この1カ月間の伸びは6ポイント。内定率は5月以降、毎月25ポイント前後のペースで上昇してきたが、ここにきて一気にペースダウンし、就職戦線がかなり落ち着いてきた様子が読み取れる。

8割台半ばという内定率は、ここ数年の10月1日時点の数値に極めて近く、企業の採用意欲の高さを裏付ける。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は83.9%。7月調査では72.9%だったので10ポイント余り上昇した。調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の72.0%となる(グラフは次ページ)。「内定を得たが就職活動を継続」と「内定なし」を足し合わせた「就活継続者」は24.1%で、4人に1人の割合。

#### 8月1日現在の内定状況

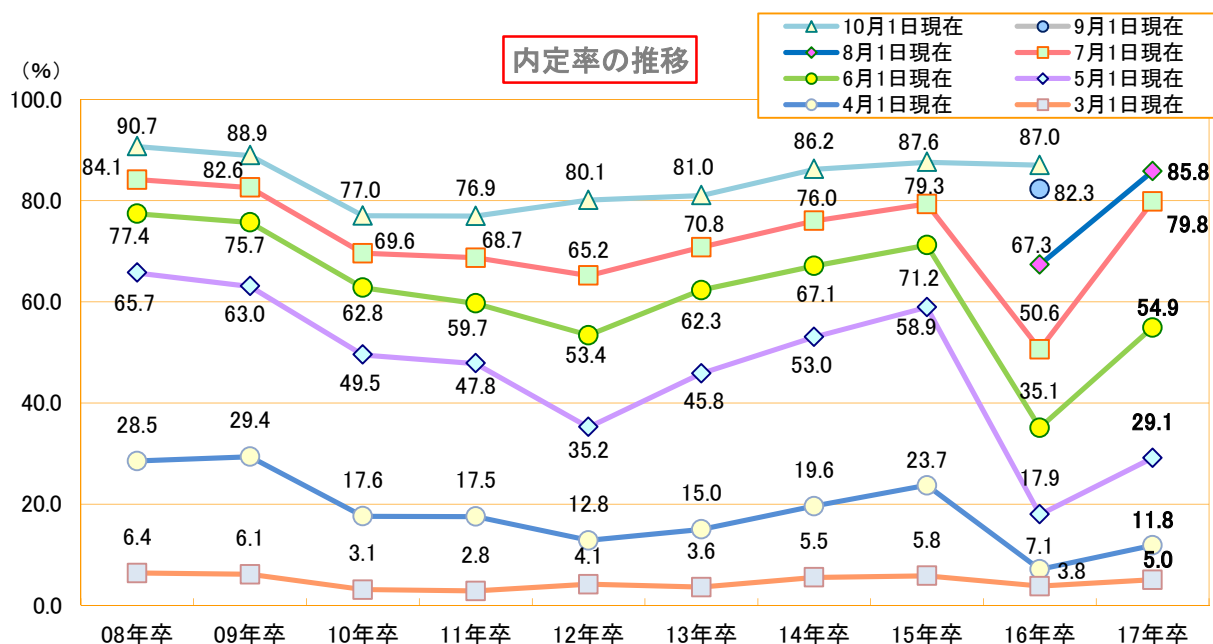
\*「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり	85.8 (79.8)	80.7 (74.1)	87.1 (82.3)	88.6 (84.8)	90.6 (78.1)
内定なし	14.2 (20.2)	19.3 (25.9)	12.9 (17.7)	11.4 (15.2)	9.4 (21.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	79.8 (72.9)	85.2 (74.6)	89.8 (78.4)	78.6 (69.4)
	活動は終了したが複数内定保持	4.3 (4.3)	6.1 (5.4)	4.7 (3.3)	2.4 (2.5)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.4)	0.3 (0.0)	0.0 (0.3)	0.8 (0.0)
	就職活動継続	11.5 (22.4)	13.8 (27.1)	10.1 (21.8)	7.0 (15.3)

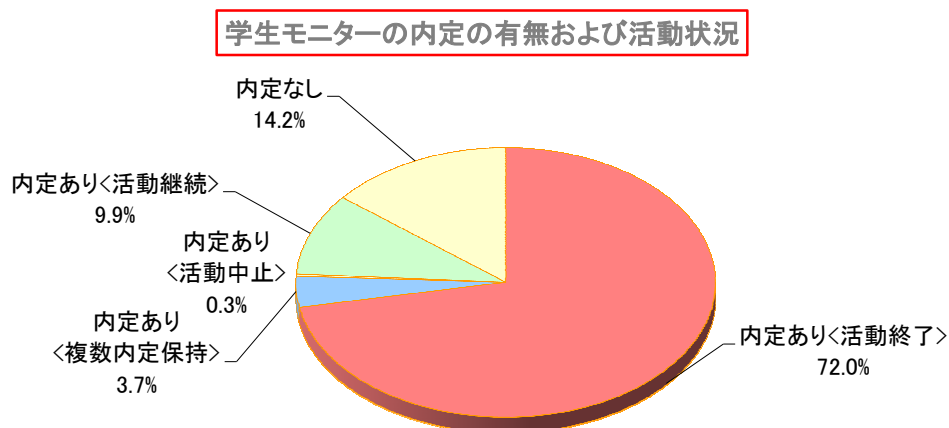
(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	2.2 (2.2)	2.3 (2.3)	2.2 (2.1)	2.1 (2.0)	2.3 (2.4)

※ ( ) 内は先月(7月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし



## 2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

8月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は47.2社で、先月（7月）時点の45.8社からの伸びは1.4社にとどまる。エントリー社数を前年同期と比較すると、前年8月は59.9社だったので、12.7社少ない。今年は選考解禁が前年より2カ月早まったことで、早い段階で企業を絞り込む動きが強かったことに加え、学生に有利な売り手市場下にあつて、幅広く就職先を考えようとする学生が少なかったことも、エントリーが減った要因だろう。

企業単独セミナーへの参加社数は18.2社で、前年同期（21.9社）をやや下回る。

エントリーシート提出社数（18.0社）については前年同期（17.9社）と同水準。筆記試験や面接などの選考試験受験社数についても大幅な増減は見られない。エントリー社数が2割以上減少したこと、また、内定率が高水準であることなどから、早い段階で志望企業を絞り込み、効率よく就職活動を進めた学生が多かったと言える。

### 8月1日現在の就職活動の状況

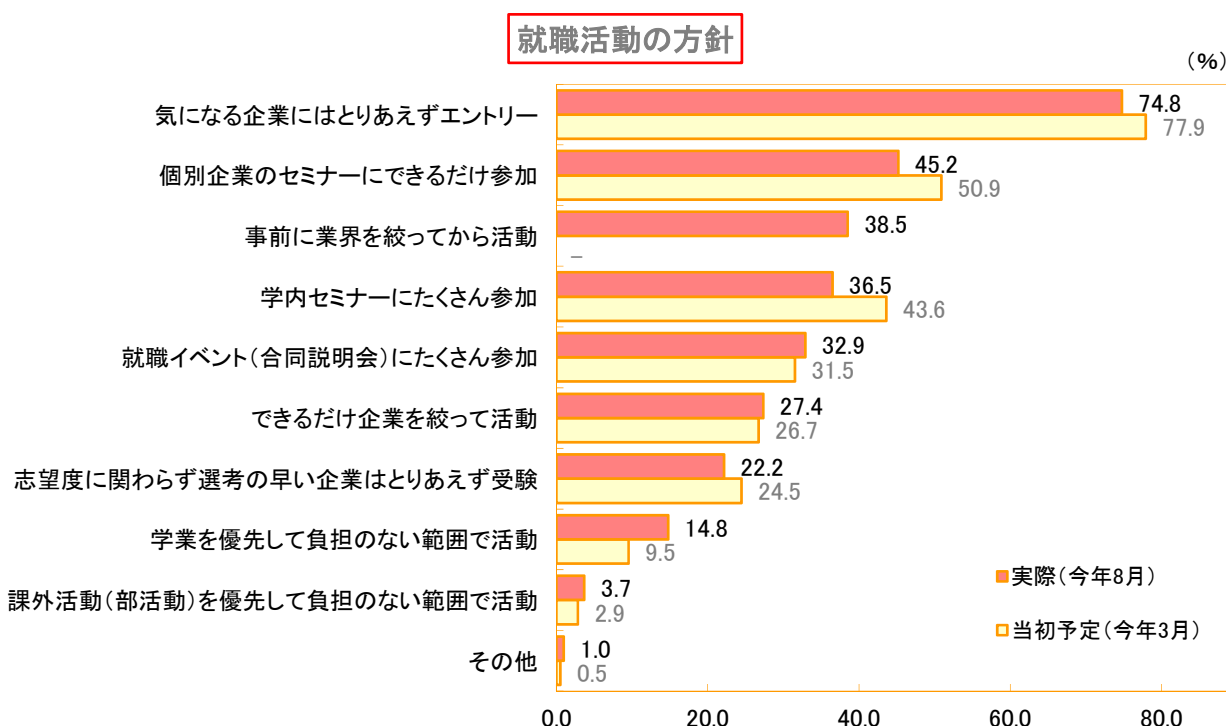
	全 体	前年8月	前年10月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	47.2	59.9	62.7	50.9	55.2	34.3	44.1
セミナー・説明会参加 (社)	43.3	51.8	53.8	46.0	49.2	34.3	40.5
企業単独開催のもの (社)	18.2	21.9	23.2	20.2	20.9	13.5	16.1
合同開催のもの (社)	13.4	15.7	16.1	14.5	14.8	9.9	14.0
学内開催のもの (社)	11.7	14.2	14.5	11.2	13.5	10.9	10.3
WEBセミナー視聴 (社)	5.9	7.0	-	6.5	6.1	5.1	5.4
ライブ中継 (社)	3.0	3.6	-	3.4	3.1	2.6	2.8
オンデマンド（録画） (社)	2.9	3.4	-	3.2	3.0	2.5	2.6
エントリーシート提出 (社)	18.0	17.9	20.0	19.7	18.9	14.8	17.9
選考試験の受験社数 (社)	26.6	25.5	29.0	30.0	27.6	22.2	23.6
筆記・WEB試験 (社)	12.9	12.5	13.8	14.6	13.7	10.8	11.1
面接試験 (社)	9.8	8.9	10.6	11.0	10.3	8.0	9.0
グループディスカッション (社)	3.8	4.2	4.6	4.4	3.7	3.4	3.5

### 3. 就職活動方針の推移

ここまでの就職活動をどのような方針で進めてきたかを尋ね、今年3月に調査した当初予定と比較した。どちらも最多は「気になる企業にはとりあえずエントリー」で、今回74.8%、前回77.9%と、いずれも7割を超えた。「個別企業のセミナーにできるだけ参加」「学内セミナーにたくさん参加」はそれぞれ5.7ポイント、7.1ポイント減少し、短期化による過密スケジュールなどで、当初の予定ほど活動できなかった学生もいたようだ。

一方で、今回新たに追加した「事前に業界を絞ってから活動」は4割近くに上り(38.5%)、早期から準備を始めるなどして、効率的に就職活動を進められた側面もあったと見られる。

「学業を優先して負担のない範囲で活動」は当初予定の9.5%から14.8%と5ポイント以上増加しており、就職活動を効率的に進められたことで、覚悟していたほど学業に負担が出なかった層が一定数いたものと推測される。



#### ■コメント

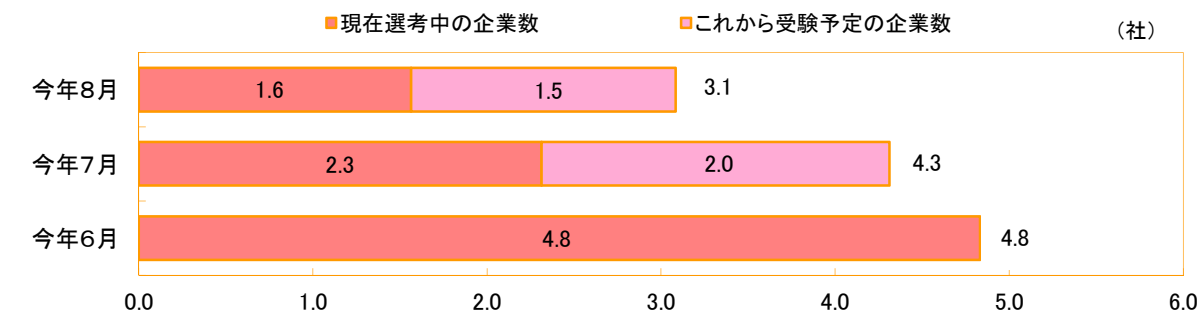
- 企業の説明会が3月は集中しすぎていたためあまり多くの企業を見れなかった。複数日程を設けるなどもっと分散させて欲しかった。 <理系男子>
- 単独企業説明会ラッシュの時期でも1日2社が限界で、スケジュールの都合上諦めたものもあった。だからこそweb説明会をもう少し上手く利用してほしいと思った。 <文系女子>
- 受けたい企業の選考スケジュールが重なり、絞らなければならなかった。 <文系男子>
- 選考を受けていく途中で新たな志望業界が出てきても手遅れだった。 <文系女子>
- 実際の面接開始は4月からのところばかりだったため説明会に行ける期間・回数が少なかった。 <理系男子>
- 地方在住なので、東京でしか行われない説明会や選考では、移動の負担や交通費を考慮して、選考や説明会への参加を諦めた企業もあった。 <文系女子>
- 授業と重なることが多くあり、大変だった。 <文系男子>
- 研究の中間発表と、(事実上の)選考の時期が重なってしまったため、選考への準備があまりできなかった。 <理系女子>

#### 4. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 24.1%）の、現在選考中の企業数は平均 1.6 社。これから受験予定の企業数 1.5 社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は 3.1 社となり、先月（7 月）調査時より 1.2 社減少した。

今後の方針・戦略を見ると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」という回答が、7 月調査（34.7%）から 5 ポイント余り増加し、約 4 割（39.9%）に上る。文理男女別にみると、理系女子では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動」が最も多く（33.3%）絞り込みが進んでいる様子がうかがえる。一方、文系学生では「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最も多く 4 割を超える（文系男子 42.0%、文系女子 44.6%）。今後のエントリー予定社数を見ても、理系女子では平均 1.3 社に対し、文系男子では 3.4 社と、文系男子学生が積極的な就職活動を継続している様子が分かる。

#### 現時点の持ち駒企業数

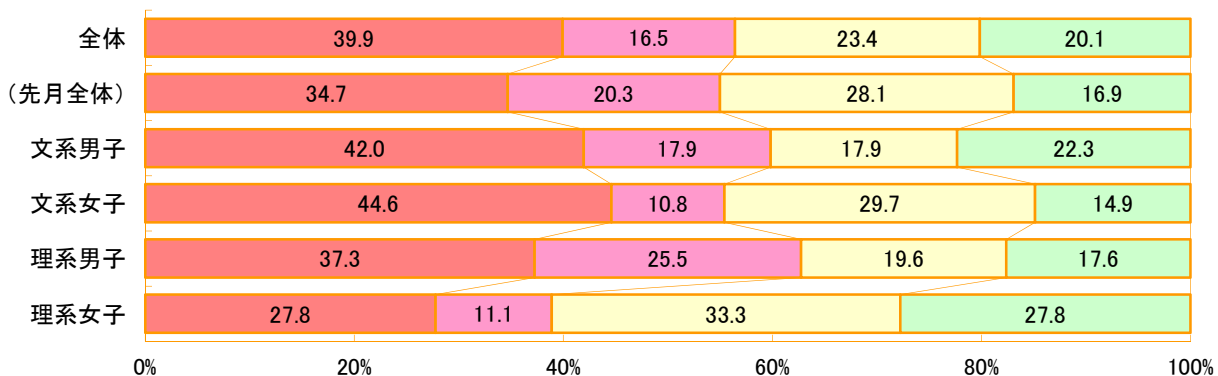


※「これから受験予定の企業数」は、6月調査なし

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	1.6	1.9	1.2	1.4	1.3
これから受験予定の企業数	1.5	2.0	1.3	1.2	1.0

#### 今後の就職活動の方針・戦略

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業だけに絞って活動する



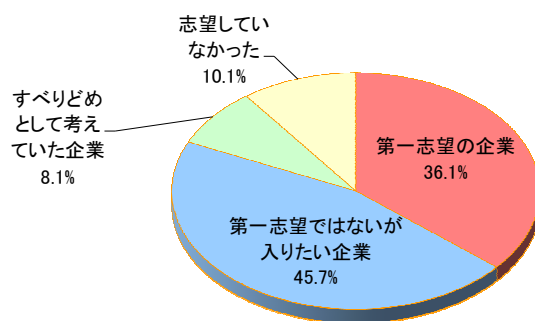
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後のエントリー予定社数	2.8	3.4	2.6	2.9	1.3

## 5. 就職決定企業の選社理由

就職活動終了者（モニター全体の 72.0%）に、就職決定企業への就職活動開始当初の志望状況を尋ねたところ、「第一志望の企業だった」が 36.1%、「第一志望ではないが入りたい企業だった」が 45.7%で、8割以上の学生が就活スタート時から就職先として意識していた企業に決めていることが分かった。

就職決定企業に決めた理由については、「社会貢献度が高い」が最多（31.6%）。今年 1 月調査で尋ねた就職先企業を選ぶ際に重視する点と比較したところ、「社会貢献度」（9 位→1 位）、「職場の雰囲気」（4 位→2 位）、「仕事内容」（7 位→3 位）などが順位を上げた。一方、「給与・待遇」（2 位→7 位）、「福利厚生」（3 位→5 位）、「休日・休暇」（6 位→12 位）など、就活当初重視していた労働条件に関する項目は軒並み順位を下げている。短期決戦だったと言われる中でも、就職活動を通じ、しっかりと企業研究を進めた上で決断をした様子が見えてくる。

就職決定企業の就職活動開始当初の志望状況



就職先企業の選択基準(上位15項目)

就職先企業を選ぶ際に重視する点 (1月)			就職決定企業に決めた理由 (8月)		
順位	項目	%	順位	項目	%
1位	将来性がある	46.4	1位	社会貢献度が高い	31.6
2位	給与・待遇が良い	41.9	2位	職場の雰囲気が良い	28.0
3位	福利厚生が充実している	39.4	3位	仕事内容が魅力的	27.2
4位	職場の雰囲気が良い	32.7	4位	将来性がある	27.1
5位	業績・財務状況が良い	27.2	5位	福利厚生が充実している	25.5
6位	休日・休暇が多い	26.5	6位	有名企業である	23.2
7位	仕事内容が魅力的	23.5	7位	給与・待遇が良い	22.8
8位	有名企業である	20.5	8位	大企業である	22.0
9位	大企業である	20.4	9位	希望の勤務地で働ける	20.6
	社会貢献度が高い	20.4	10位	業界順位が高い	19.5
11位	教育・研修制度が充実している	18.4	11位	世の中に影響力が大きい	17.6
12位	希望の勤務地で働ける	17.9	12位	休日・休暇が多い	15.3
13位	業界順位が高い	16.1	13位	製品・サービスの質が高い	13.9
14位	世の中に影響力が大きい	12.3	14位	業績・財務状況が良い	13.7
15位	製品・サービスの質が高い	10.9	15位	希望の職種に就ける	11.6